点訳資料　2

楽譜点訳の会「星」
2006年 11月 11日

繰り返し法(凸面)

原則　点字楽譜独自の繰り返し法（レ下がり・数字による繰り返し法・小節番号による繰り返し法）は、もとの部分と繰り返しを使う部分が、点字楽譜上で同じである場合に使用することができる。

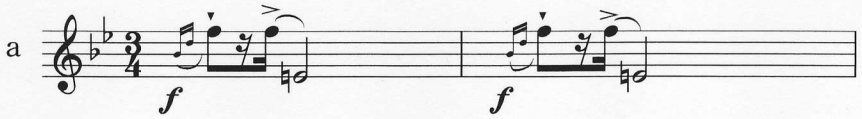
1．レ下がりによる繰り返し法

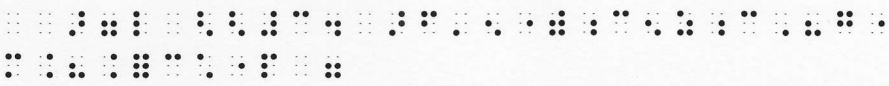
小節の一部、または前小節全部の繰り返しで、もとの部分と繰り返しを使う部分が点字楽譜上で同じ時、使うことができる。

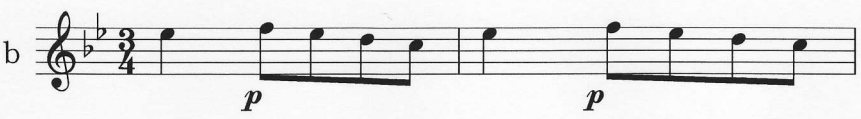
（1）　次の記号がある場合

ppp　*pp*　*p*　*mp*　*mf*　*f*　*ff*　*fff*

cresc.　*decresc.*　*dim.*

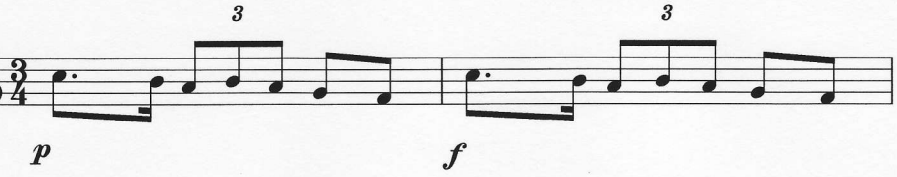


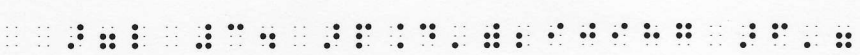




前小節の頭の情報を置き換えて使うことが出来る

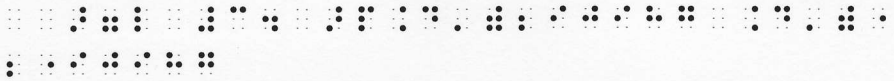
c





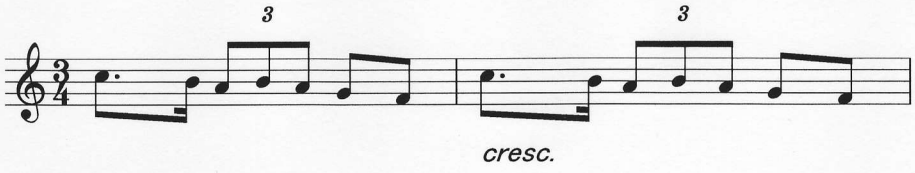
小節の頭の情報をとっては使えない

d



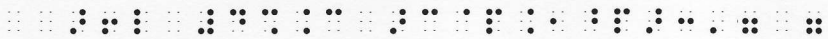
前小節に情報がない時、情報を付け足して使うことが出来る

e



（2） 松葉のクレッシェンド、デクレッシェンド

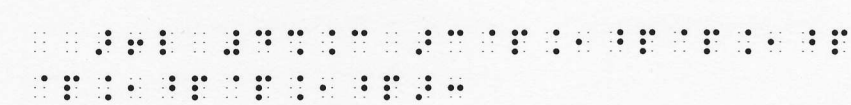
a



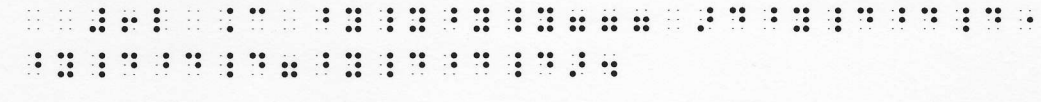
b

c

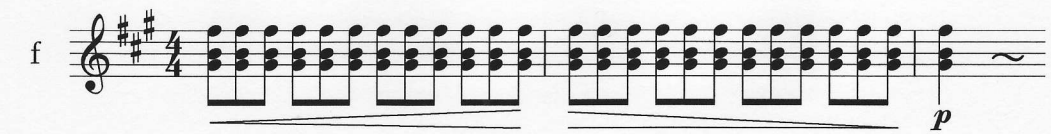
d

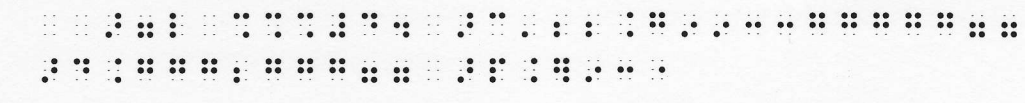


e



f

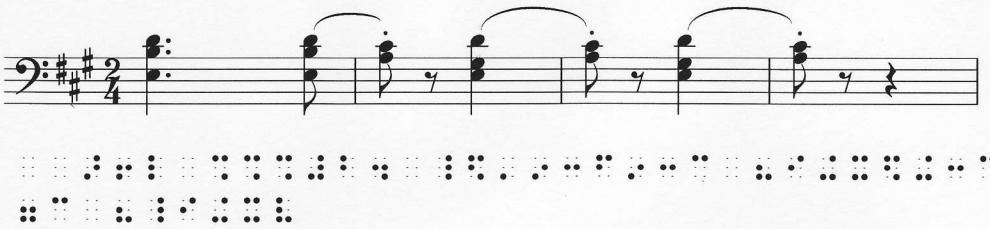




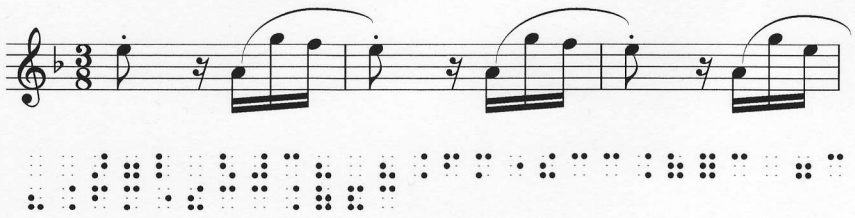
（3） スラー・タイ

繰り返しに使う元の部分のスラー・タイを明確にするために
下記のように使うことが出来る

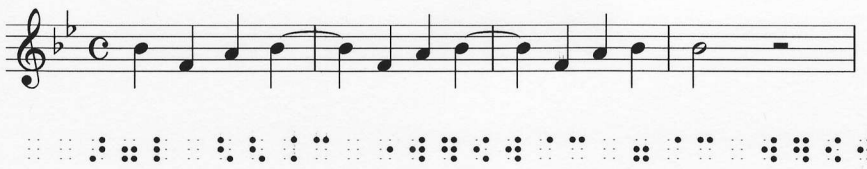
a



b

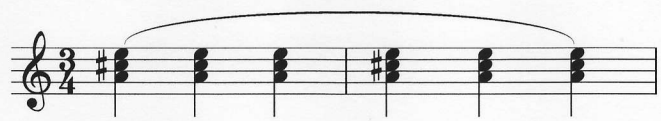


c



（4） フレーズスラー

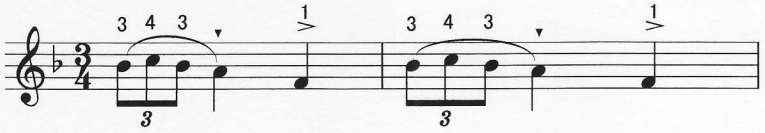
a



b

（5） 指記号

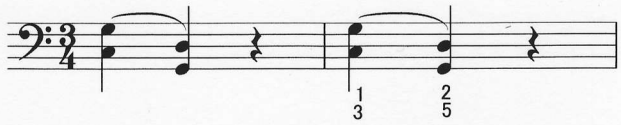
a



b

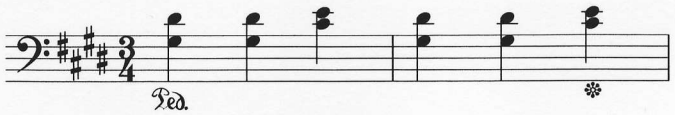
*後の小節に指記号が記されていない時、注意する

c

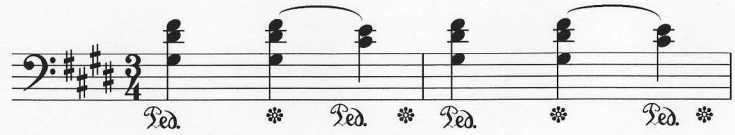


（6） ペダル記号

a

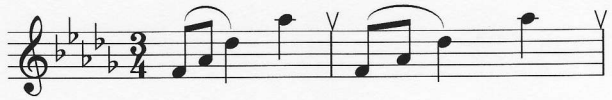


b



（7）ブレス記号

a

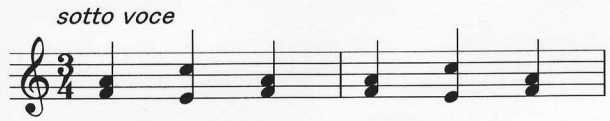


b

c

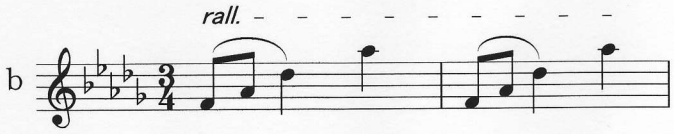
（8）発想標語など

a



継続をあらわす点線の中では使うことができる

b



（9）その他

・アクセント、スタッカート、ｓｆ．ｆｐ．ｒｆｚ．など、全く同じ時のみレ下がりにできる。

・弓弦楽器の弓記号、指記号は全く同じ時のみ、レ下がりにできる。

（参考） 拍の　⁝⁝　繰り返しの取り方

（※拍を「数字の拍」・「<u>と</u>の拍」に分けて説明する。）

<u>⁝⁝が使える拍</u>

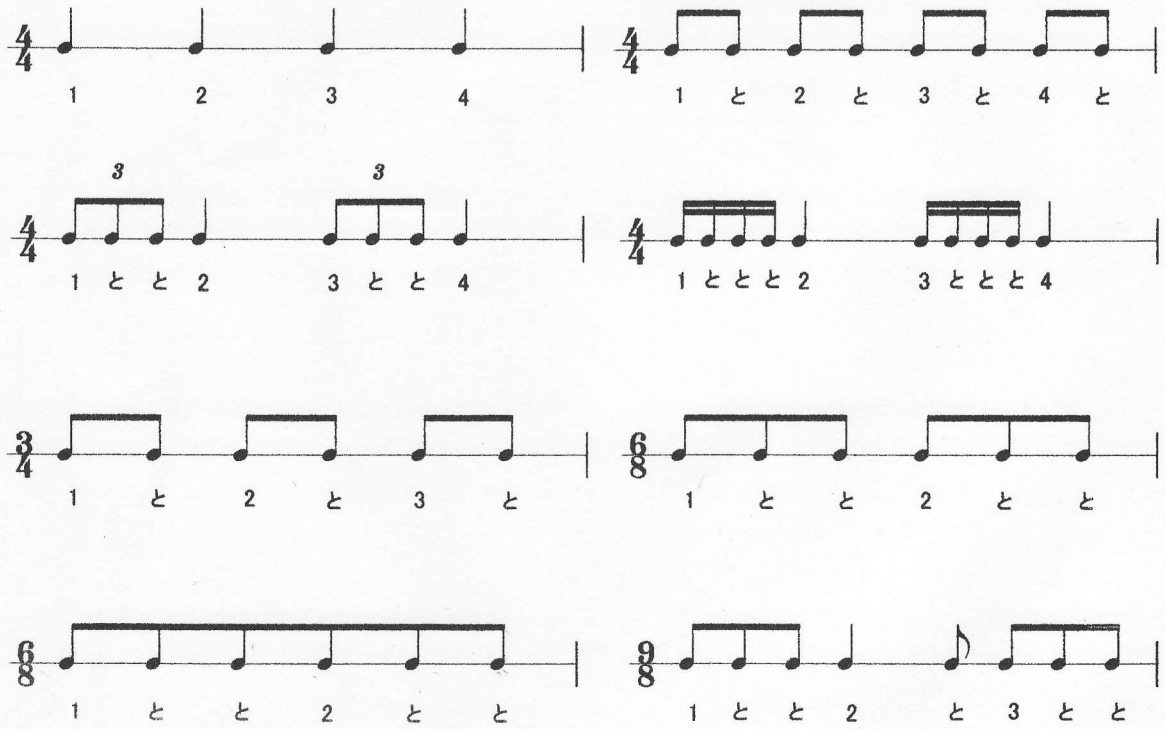
「数字の拍」から「数字の拍」

「数字の拍」から「との拍」

「との拍」から「との拍」

<u>⁝⁝が使えない拍</u>

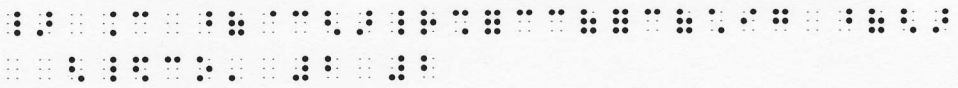
「との拍」から「数字の拍」



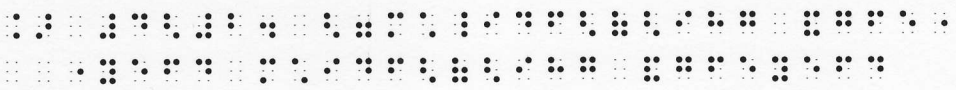
2．数字（戻り数字）による繰り返し法

もとの小節と繰り返しを使う小節が点字楽譜上で同じ時、使うことができる。
同じパラレル内でのみ使うことができる。
強弱記号を置き換えて使うことはできない。
指記号が記されている時は注意をする。
戻り数字にタイ、スラーを付けては使わない。

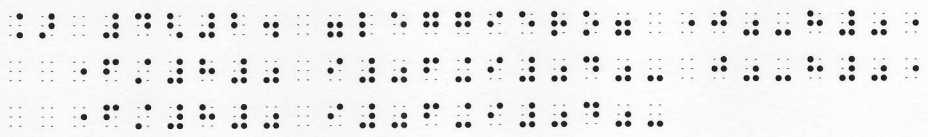
a



b



c



３．小節番号による繰り返し法

もとの小節と繰り返しを使う小節が点字楽譜上で同じ時、使うことが出来る。
戻る小節番号をたて、繰り返しが終わる小節もわかりやすいよう小節番号をたてる。
小節数など、戻る価値があるか、また、スムーズに読むことができるかを考えて使う。
強弱記号を置き換えて使うことはできない。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆